

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024年 3月 5日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 170-0004

所在地 東京都豊島区北大塚2-24-5 ステーションフロントタワー2F

評価機関名 株式会社 地域計画連合

認証評価機関番号

機構 02 - 002

電話番号 03-5974-2021

代表者氏名 江田 隆三

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H0902006
	②		福祉	H1401063
	③		福祉	H1801094
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	矢口第二保育園			
事業所連絡先	〒	146-0093		
	所在地	東京都大田区矢口2丁目21番16号 101号室		
	TEL	03-3759-4300		
事業所代表者氏名	小畑 佳名子			
契約日	2023年 5月 29日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023年 7月 25日			
利用者調査結果報告日	2023年 11月 9日			
自己評価の調査票配付日	2023年 7月 25日			
自己評価結果報告日	2023年 11月 9日			
訪問調査日	2023年 11月 16日			
評価合議日	2023年 11月 16日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・事前説明にあたっては、令和5年度方式の評点基準、確認根拠資料の準備について、わかりやすい独自資料を用意し、事業者の負担を軽減する工夫を行っている。 ・分析シートは記入のポイントを用意し、効果的、効率的に情報が整理できるよう工夫を行っている。 ・確認根拠資料は、訪問調査の概ね3週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ったうえで訪問調査を実施し、訪問当日は事業所の課題や良い点を把握するためのヒアリングに重点を置いて実施している。 ・合議は、訪問調査終了後、同じ日のうちに、速やかに実施している。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024年 2月 22日

事業者代表者氏名

小畑 佳名子

印

<p>1</p>	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>【目標】子どもが現在（いま）を最も良く生き、望ましい未来（あす）をつくり出す力の基礎を培う。 ≪理念≫すべての子どもたちは大切に守られ、幸せに生きる権利があります。保育理念に保育指針に基づき、子どもたち一人ひとりの最善の利益に配慮した保育環境を提供します。 ≪方針≫(1)安全で安心できる保育環境を整え、生きる力（喜び）を育みます。 2)養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を支援します。 3)家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じて助言するなど、保護者と共に心豊かな子育てを目指します。 4)地域における子育て支援の拠点として、地域の子育て力の向上に努めます。</p>
<p>2</p>	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>素直な人。 チームワークを大切に実行できる人。 組織の中で自己を発揮できる人。 他者の気持ちに寄り添い節度ある発言の出来る人。 保育という仕事に楽しく前向きに取り組める人。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>子どもの可能性を伸ばすのは保育者であるという使命感を日々新たに持ち続けてほしい。 保育という仕事を楽しいと感じて取り組んでほしい。 他の職員と一緒に創る自分たちの組織を誇りに思ってもらいたい。 自分の人生を大切に、その中に矢口第二保育園が共にあってほしい。</p>

調査対象

2023年7月25日現在の施設の利用者(保護者) 56世帯(利用者総数 67名)を対象とした。

調査方法

WEBアンケート。施設にて担当が保護者に手渡しする形で案内状を配付。保護者任意のデバイスにてアンケートに回答。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

67
56
56
40
71.4

利用者調査全体のコメント

総合満足度(大変満足、満足を合計した割合)は、(93%、37人)となっている。

●各設問のうち、「はい」の比率が高かった上位は、以下の項目であった。
問1. 園での活動は、お子さんの心身の発達に役立っていると思いますか
(100%、40人)

問4. 戸外遊びや行事などにより、お子さんが自然や社会と関わる機会は十分確保されていると思いますか

問9. 園内は清潔で整理された空間になっていると思いますか

問13. あなたは、職員がお子さんの気持ちを大切にしながら対応してくれていると思いますか
(各々 98%、39人)

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	40	0	0	0
小規模認証保育園から、認可の同学年がある矢口第二保育園の転園となり、マンモス保育園のように大規模な人数に激増することなく、多くはない児童数の園に入ることができて本当によかったと思います。もちろん大きな規模の保育園にはまた魅力や特徴があると思いますが、矢口第二保育園は先生方が子どもだけでなく、保護者に対してもとても温かく、親身です。気軽に日々の声を届けることができる距離感のアットホームな環境で安心して毎日仕事に向かうことができています。 と言った意見があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	38	2	0	0
個人の興味や好きな遊び、距離感の近いお友だちをタイムリーに把握して、のびのびと見守って下さっているのので、気を遣いがちな娘も自分のやりたいことを存分にできていると思います。 夏は水遊びをたっぷりして下さってます。子どもの体調で水遊びができない日でも、車や他の興味のあるものを用意して下さって、子どもがつまらなかったり、悲しくならないような配慮を下さってありがたいです。 などの意見があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	35	4	1	0
ひとり親ということもあり、自宅での食事はどうしても偏りが出てしまいがちですが、園でのバランスの取れたお給食があるおかげで日々の家事に対して少しでも気を抜くことができています。子どもの食生活への良い影響はもちろん、毎日食事を考え、作る主婦(主夫)への心強いところだと思います。 手作りの給食やおやつが頂けて嬉しく思っております。家では食べない野菜も保育園だとたくさん食べているそうです。 などの意見があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	39	1	0	0
5月入所で、まだ大きな行事に参加していないので、わかりませんが、これからの行事がとても楽しみです。土手や公園に遊びに連れて行ったり、泥遊びやお水遊び、野菜作りなど自然に触れさせていただいています。虫取りや野菜を育てる経験、歌の練習や英語、体操どれも本人は楽しい経験になっているようで、家でも歌ったり、こんな野菜を育てると話をしてくれます。などの意見があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	33	5	0	2
毎月、毎週本当にとっても助かっています。土曜保育は人数が少ない中で、前日でも対応しますと言って下さるとも良心的な園です。接客業ということもあり、仕事を切り上げられない場面も多く、お迎えに、5分遅れるかもしれない…10分遅れるかもしれない…という曖昧な状況がどうしても起きてしまいます。ですが、お客様と話しながらもコドモンで連絡をすることができる点や電話をすれば温かく了承して下さいの先生方の声にとっても助けられています。と言った意見があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	30	9	1	0
先生の人数が勿論児童より少ないので、たまにですが見ている事は難しかったか…と感じる事があります。しょうがないと思っています。怪我をしないようよく見ていただいています。今のところ危険を感じたことはありません。普段の会話で気になったことなどで対策を考えてくださることもあります。などの意見があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	37	3	0	0
働く保護者に向けて、保育参観の日程を早目に流してくれることはとてもありがたいです。希望日時を聞いていただけなので助かります。大体土曜日に設定して下さっているの、私の仕事は都合がつきやすくありがたいです。などの意見があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	35	4	1	0
毎日の送り迎えでは時間や周りの子ども達、周りの保護者がいることでゆっくりと相談をできるような状況は少ないように見えますが、事前にその時間を作って欲しいと伝えたらきっと快く了承して下さる園だと思います。先生方から様子を細かく教えていただけたりこちら相談しやすい環境を作ってくださいるので本当にありがたいです。保護者面談を設けていただき、気になっていることを質問できます。などの意見があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	39	1	0	0
いつもキレイです。掃除が行き届いていると思います。毎日清掃して下さっている様子をお見かけしています。常に園内は明るく綺麗だなあと感じてます。などの意見があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	35	4	1	0
先生方にも趣味やプライベートがあると思いますので、特に気になる点はありません。なにも問題ないです。むしろもっと自由に髪の色やネイルをしても良いのかなと思います。気さくな面もありつつ、しっかりと話しして下さいます。適切で嫌に思うことはないです。などの意見があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	37	2	1	0
<p>まだ園の中で体調不良になる経験をしていないので、わかりません。 少しの変化もよく気がついてくださいます。 怪我をしたときは、コドモンでわかりやすく写真を送って下さって安心しました。 家では気が付かない体調の変化にも気がついていただきありがとうございます。 などの意見があった。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	31	7	0	2
<p>まずは自分で考え、行動してみようと思える子ども達の成長を見逃さず、上手に促してくれる担任の先生方だと思います。 子ども同士のトラブルで、少しご相談すると担任の先生が特に様子を見てくださり、それから言わなくなりました。集団生活の中でしか学べないことがあるかと思うので、ただ物理的に離すだけでなく、子に寄り添ってくださる担任の先生に感謝です。 などの意見があった。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	39	1	0	0
<p>苦手なことを強要するようなことはなく、チャレンジする心を養うために子どもと向き合ってくれていると思います。 子どもの気持ちを最優先して、伸び伸び育ててくれています。 風邪をひいてどうしても水遊びができない、でも水遊びがしたい息子の気持ちに寄り添ってくださってます。 などの意見があった。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	33	6	0	1
<p>思い当たる事はありません。 余計なことを聞かれたことはありません。 などの意見があった。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	34	4	1	1
<p>知りたいことをきちんと説明してくれます。 毎日写真付きのご報告や、ホワイトボードでのお知らせがわかりやすく助かっています。 毎日写真や動画をコドモンで送ってくださり、先生からのコメントもわかりやすく毎日楽しみにしています。 などの意見があった。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	37	3	0	0
<p>即対応してくれるイメージです。 真摯に回答してくれます。 気になったことを伝えた時に、園長先生や主任先生がすぐに対応に動いて下さってありがたかったです。 話をしっかり聞いてくれるので、頼りにしています。 などの意見があった。</p>				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	21	12	6	1
<p>そこまでの相談事はありません。 まだそのような経験はありません。 などの意見があった。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	職員には入社時に「こころを育てる大田区の保育」を全員配付し研修を通じ周知している 理念、方針等は公営時代を継承し大田区が作成した「こころを育てる大田区の保育」に依拠している。職員には入社時に全員配付し研修を通じ周知している。困った時には随時読み直し、どのような保育がその子に適しているのか、クラス会議や職員会議で話しあっている。「全体的な計画」は「保育理念」「保育方針」に基づき各歳児の養護、教育、食育等を策定している。「重要事項説明書」に基本理念、運営保育方針、園目標等を記載し、保護者には入園前の面談やオリエンテーションで説明し、理解したことを証する「同意書」を頂いている。 子どもにとって何が一番適しているかを都度考え皆で答えを出し合うよう指導している 園長をはじめとする各階層の職務分担、決裁権が「職務分担表」に明示されている。園長・主任は職員の保育観の統一を図るため入社時に説明会を実施し、理念・基本方針等は「大田区の保育」に準ずることを職員に伝え、実際の保育内容について、その年齢のその子どもにとって何が一番適しているかを、その都度考えて話し合い、皆で答えを出し合うよう指導している。個々の相談や意見はなるべく乳児会議・幼児会議に結び付けていくよう園長・主任が間に入って進めている。迷った時をチャンスと捉えどのような考えでどのように保育をするか考えさせている。 検討事項はクラス会議等での意見を基に、乳児・幼児会議を経て職員会議で決定している 園の検討事項は各クラス会議、各係、昼礼での意見を基に検討し、乳児・幼児会議を経て職員会議で最終決定している。区の保育サービス課や法人に確認することもあるが、基本的に職員全体で話し合った結果を尊重している。緊急の決定事項は園長・主任が昼礼で決定経緯と共に職員に伝えている。重要な案件については、先ず区の保育サービス課に確認している。利用者に関わる案件については運営委員会などを経て、決定経緯と共に、お便りや電子媒体で迅速に保護者へ伝えている。最近では病児保育の利用案内、感染症に罹った場合の登園基準などを連絡した。	

カテゴリ2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ2の講評		
<p>保護者にはアンケートや保護者面談が、職員には理事や園長の職員面談が実施されている</p> <p>保護者が参加する年2回の運営委員会の開催前には、事前に「保護者アンケート」を実施し、検討事項は委員会で協議決定し対応を保護者に知らせている。行事終了後のアンケートも実施し、昨年は年1回の実施となったが、年2回の保護者面談を実施し、直接話を聞く機会を設けている。職員は毎週出勤する法人理事が次年度の意向や希望を聞いたり、悩みや相談毎に対応している。職員会議にも出席し、現場の状況を把握している。園長は職員との個人面談を年2回以上行い、個人の意向と目標、課題、悩みや不安、困ったこと等を聞き取る機会を設けている。</p> <p>子育て支援サービスを提供する施設として地域のニーズを検討し、園庭の開放を始めた</p> <p>「区立園長会」「地区別園長会」、矢口地域の子育て支援施設が集まる「矢口ネット会議」、民生委員や保護司が集まる「社会を明るくする運動」等に参加し、幅広く地域の情報を交換し共有する場に参加している。園長会では各園での大きな行事の開催方法や内容について、評判が良かった点などを情報交換している。また、小学校の校長先生や医師会、子ども家庭支援センターとも情報交換する機会がある。福祉施設としての保育所の役割から、子育て支援サービスを提供する施設として、地域のニーズを検討し、今年度は先ず園庭の開放を始めた。</p> <p>「中期計画:令和4年度～6年度」の最優先・最重要課題の3項目が明確化されている</p> <p>民営化1年であるため、保護者や子ども達との信頼関係を構築するため「中期計画:令和4年度～令和6年度(3年)」が作成された。最優先・最重要課題は「①移管後の保護者、子どもとの信頼関係の構築、②職員の定着、③大田区立保育園として区の考えを理解」の3項目で、その実現のための活動内容や計画が記載されている。ただ「単年度計画」は全体的な計画、年間指導計画、年間行事計画が記載され、推進方法としては今年度設置された5つのプロジェクトと年度末に活動内容の発表が記載されている。中期計画の3項目の年度目標の明確化も求められる。</p>		

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ3の講評		
<p>「職員自己評価票」には「人権について自分が気を付けていること」の欄を設けている</p> <p>「大田区の保育」の「保育士の心得」にはⅠ職員の基本姿勢、Ⅱ職員の心得として、1. 子どもの人権を尊重した保育を行う、2. 心身共に健康であること、3. 健康観察、4. 安全、5. 衛生、6. 玩具について記載され、職員は入職前に必ず研修で読み合わせしている。法人としても「保育士である前に一人の社会人である」ことを話し、職員会議でも随時人権の尊重について話している。全国保育士会が出している「人権擁護チェックリスト」を全職員が実施しており、「職員自己評価票」には「人権について自分が気を付けていること」を記載させている。</p> <p>利用者の意見は「苦情対応マニュアル」に基づき速やかに解決し、職員間で共有している</p> <p>重要事項説明書の「保育内容に関する相談・苦情窓口等」には福祉オンブズマン、第三者委員が案内され入園前オリエンテーションでも説明している。発生時は「苦情対応マニュアル」に基づき速やかに解決し、職員間で共有し苦情対応ファイルに記録している。保育中の職員の子どもへの言葉掛けについて話し合う場を設け、大人同士で使わない言葉や言えないようなことは子どもにも使わないことを共通認識にした。虐待が疑われる時は保育サービス課と子育て支援センターに連絡し、園長・主任・担任が保護者と関わった時の詳細を個別ファイルに記録している。</p> <p>今年度から園庭の無い小規模保育園に対し、本園の園児と一緒に遊べる時間を設けている</p> <p>園内の透明性を高めるため、運営委員会前の利用者アンケートへの返答、保育内容や運営情報に関する報告書を玄関前に掲示したり、電子媒体で一斉配信している。ボランティアや実習生は受け入れマニュアルに基づき実施している。昨年は実習生がボランティアを経てアルバイトとして勤務しながら保育に携わった。今年度から園庭開放事業を行っている。近隣には園庭の無い小規模保育園が多いので、予約制で本園の園児と一緒に遊べる時間を設ける予定である。区主催の育児応援券事業で妊娠中～3歳児まで、保育園体験と給食試食も実施している。</p>		

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>警察署や消防署に来てもらい不審者対応訓練など、専門家の目からの指摘を貰っている</p> <p>事故、災害、感染症、等を主要なリスクと捉え、「事故防止ガイドブック」「誤嚥、窒息事故防止マニュアル」「防災の手引き」「新型コロナウイルス感染症対策」等が作成されている。事故による「けが報告書」では原因分析が行われ、今後の対策が明示されている。「ヒヤリハット」では発生した事象が5W1Hで記載され、改善点が明示されている。防災については毎月、地震や火災を想定した避難訓練を行っているが、警察や消防署に来てもらい不審者対応、消火器訓練など職員向けと児童向けに訓練を行い、専門家の目からの指摘や助言を貰っている。</p> <p>「BCPの発動時から復旧に向けて」では早期復旧に向けての取り組みが明示されている</p> <p>「矢口第二保育園 BCP計画」が作成されている。「発動時の組織体制」には園長を司令塔としての安否確認避難誘導、救急救護、給食管理他、担当者が明示され、「発災時の出社・帰宅体制」では出社・帰宅時間帯と就業時間外を分けての職員の対応、「BCPの発動時から復旧に向けて」では、職員・園児安全確認、園舎の被害状況の把握、被災者の受け入れ、事業継続への早期復旧を誰が担当するかが明示されている。例年、異常気象で災害地域が見直されているので、避難場所に変更がないかを確認して、常に最新の情報となるよう更新している。</p> <p>「個人情報の利用目的」が説明され、保護者から承諾したことを証す署名を得ている</p> <p>重要事項説明書の「個人情報の利用目的」には、保育園で取り扱う個人情報にはどのようなものがあり、それらの利用目的は何か説明され、保護者が説明され承諾したことを証す署名を得ている。入園時に入手できる個人情報は事務所にある鍵付き書棚に保管し管理している。職員には勤務で知った個人情報は外部に漏らさないことを誓約させ、同意書をとっている。ボランティアや実習生も同様としている。保育に関わる情報の利用について、職員は電子媒体にアクセスできるIDとパスワードにより必要な時に活用できる。個人のUSB等の利用は認めていない。</p>		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

3/3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

職員採用は開園10か月前から始め、20代～50代まで均等に3～4名の構成にできた

2022年4月の民営化移行に備え職員採用は10か月前から始めた。立ち上げを支えられる経験ある保育士、調理師、栄養士の採用に努めた。職員の年齢層は20代～50代まで均等に3～4名ずつ在籍し、豊富な経験と若さの行動力両方を兼ね備えていると評価している。民営化の利点として計画した英語レッスンの外国人講師の採用、外部の運動講師による運動遊びを実施できた。初年度の退職者は1名に留まったが系列園より保育士1名を迎えることができた。幼児クラスの経歴が長く、本園が欲しかった人材であり、理想的な人事異動となった。

園長は「職員自己評価表」の内容に基づき職員と面談し、育成計画の進捗を確認している

「キャリアパス要件」が作成され、施設長、主任、リーダー保育士、一般保育士の階層ごとの業務内容、求められる能力(社会性・専門性)、任用要件(研修・経験年数)等が定義されている。年度初め職員は「職員自己評価表」の「自己目標(特に学んでみたいことなど)」「今後どうなっていきたいか キャリアプラン」等を記述して園長との面談に臨み、園長はそれらを基に期待される役割や、自信のある分野、やってみようことを中心に育成計画を明確にしている。11月には前期で話した育成計画の進捗を確認し、必要に応じて見直しをしている。

プロジェクトではクラス以外の職員と共同作業することでチームワークが強化されている

区からは園長、主任、保育士、栄養士または調理師向けに「職場研修年間予定表」が案内される。19件開催され、ほぼ全員が参加できる。保育士自身が見つけてきた外部研修やキャリアアップ研修には、出来るだけ参加してもらえようシフト調整している。昨年度は年間30回以上の研修参加があり、職員一人当たりに1.5回以上の研修に参加した。研修報告書は事務所書棚にあり誰でも閲覧できる。今年度は5つのプロジェクトを立ち上げ、全職員にやりたいプロジェクトに参加させている。クラス以外の職員との共同作業によりチームワークが強化されている。

カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
【背景及び課題】 区の理念・方針を引継ぎスムーズな運営ができるよう、民営化1年目は子どもたちや保護者が迷ったり不安になったりしない安定した運営を目指し、その上で民営化の利点を理解してもらうこととした。 【取り組み】 事前に園長他が保育に入り具体的な引継ぎを行った。様々な活動で確認したことを踏まえ、歳児毎の一日の保育の流れ、年間行事、給食他についての運営を明確にした「2022年度事業計画書」を作成した。英語遊び・運動遊び等の独自サービスを取入れ、保護者アンケートでニーズを確認した。 【取り組みの結果】 引継ぎ時に入職したメンバーが人間関係づくりを引っ張り、保護者の協力も多数得られた。ICT導入、布団の見直し、かけ毛布カバーの廃止など高評で、行事を増やしたこと、土曜日の行事開催が一番喜んでいただいた。英語と運動講師のレッスンは子どもにも保護者にも反響が大きく、子どもたちの大きな自信と自己肯定感を高めることにつながった。 【振り返り(検証)・今後の方向性】 民営化1年目は保護者、職員の協力のもと無事に終えることができたと考えている。来年度からは反響の大きかった英語と運動指導が一層充実した内容になるよう取組んでいく。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 民営化1年目は子どもたちや保護者が迷ったり不安になったりしない安定した運営を目指し、その上で民営化の利点を理解してもらうこととした。背景を踏まえた、適切な目標設定と言える。また、その為の取り組みとして、歳児毎の一日の保育の流れ、年間行事、給食他についての運営を明確にした「2022年度事業計画書」を作成し、また、民営化の利点として英語遊び・運動遊び等の独自サービスの取り組みも明確にしている。 “引継ぎ時に入職したメンバーの人間関係づくり”“保護者の協力”が多数得られたこと、保護者には“ICT導入”“かけ毛布カバーの廃止”“行事を増やした”“土曜日の行事開催”が喜んでいただけたこと、“特に英語と運動講師のレッスンは子どもにも保護者にも反響が大きく、子どもたちの大きな自信と自己肯定感を高めることにつながった”と、取り組みについての検証が行われた。 民営化1年目は無事に終えることができたと総括され、次期の事業計画に英語と運動レッスンの一層の充実が明確にされている。重要課題に向けての取り組みは、PDCAが適切に回り、成果をあげている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【背景及び課題】

民営化移行に伴い、保護者には様々な不安を持つことが推察された。保護者がどのような印象を持ち、要望や意見を持っているかを把握し、適時に対応することを目標とした。

【取組み】

- 1.年2回開催する運営委員会の事前アンケートの実施と園の対応の報告
- 2.大きい行事である運動会と生活発表会の事後アンケート実施と、寄せられた要望についてのフィードバック
- 3.年2回の保護者面談の実施して、直接個別の意見・要望等を把握

【取組みの結果】

- 1.1回目の事前アンケートでは、園庭の蚊の対策他、計5件の要望が寄せられ対応をした。2回目はコロナで委員会そのものは実施されなかったが、保育参加を年2回開催の要望他に返答を実施した。
- 2.事後アンケートを実施し要望に対応した。
- 3.コロナの影響で公式な開催は1回に留まったが、約50名の保護者と実施、運営への要望・意見等はなかった。

【振り返り(検証)・今後の方向性】

掲げた3項目は全て実施し、寄せられた要望・意見には漏れなく対応が出来たと考えている。2年目も継続するが、今年度からは電子媒体の「保護者からの連絡事項」の中に要望・意見が含まれていないかを確認し対応することとした。

目標の設定と 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> ● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> ● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

民営化移行に伴い、保護者が様々な不安を持つことが推察され、保護者がどのような要望や意見を持っているかを把握し、適時に対応を実施することを目標とした。また、取り組みとして、1.年2回の運営委員会の開催時のアンケート対応、2.大きい行事の事後アンケート対応、3.年2回の保護者面談の実施して、保護者の意見・要望等を把握し、确实に対応することとした。具体的な目標が設定され、その達成に向けた取り組みも明確である。運営委員会2のアンケート実施で、1回目は蚊の対策ほか、計5件の要望、2回目は保育参加の年2回開催他等に対応した。保護者面談には約50名が参加したが、園の運営に関わる要望・意見等は特に出なかった。コロナの影響で1回は開催できなかった。一部は計画通りの実施ができなかったが、寄せられた要望・意見には漏れなく対応が出来たと総括している。また、次年度も継続すること、今年度は電子媒体の「保護者からの連絡事項」に記載された要望・意見も抽出し、対応することとした。重要課題に向けての取り組みは、PDCAが適切に回り、成果をあげている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学希望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>ホームページから区立民営の保育園として園の概要などの情報を得ることができる</p> <p>区のホームページには区立民営の保育園として記載されており、所在地、交通アクセス、施設の概要、年間行事、園周辺の様子を知ることができる。園舎外観や乳幼児室、ホール、園庭等の写真も一緒に掲載し、園の雰囲気も伝えている。その他の特色として園庭は、桜、ブドウ、柿などのほかにも樹木が植えてあり、身近に自然を感じることができたり、広い畑があり畑では花や野菜などの栽培に取り組んでいることなどを紹介している。また、法人のホームページにも園の概要を載せており、定員や1日の生活の流れなどを知ることができる。</p> <p>行政や関係機関と連携をして園の情報を提供している</p> <p>区のホームページに載せる情報については毎年聞き取り調査があり、内容の変更があればその都度報告をして更新をしている。地区別園長会に参加して園同士の情報交換をしたり、地域で作成している保育園マップの見直しの依頼もあり、園内で職員が精査して提出をしている。区立園長会や地区別園長会のほかに、児童館や民営の保育園など、地域の子育て支援施設の職員が集まり会議を開催したり、小学校、中学校、医師会、子ども家庭児童センターなどと情報交換をする機会もある。</p> <p>見学希望者には個別対応し質問などにも丁寧な対応をしている</p> <p>区で統一された園見学会があり、区のホームページでは1日3組限定で実施の4回を募り、希望者への対応をしている。その他にも見学希望が多く年間に50組程度は来園しており、園長、主任が個別に対応をしている。見学者には大田区で統一された重要事項説明書を基本に、分かりやすく作成した園独自の重要事項説明書(園のしおり)を渡して案内し、質問には丁寧に回答をしている。外国籍の見学者もあり、口頭で説明をしているが、園の理解に向けて、対象の外国語に対応したしおり作成の検討が必要だと考えている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園説明会を実施して、基本的なルールや重要事項を説明して同意を得ている</p> <p>入園決定者には園に来てもらい、入園前の健康診断、個別面談の日程を伝えて、重要事項などの必要書類を手渡ししている。個別面談時までに書類の熟読や必要書類に記入を依頼して、面談時には重要事項説明書(園のしおり)に基づき、分かりやすく説明をしている。重要事項説明書には園の概要や保育方針、保育時間、延長保育について、土曜日保育についてなど基本的なルールが記載されており、特に16項目の重要事項については同意書に保護者署名をしてもらい書面で同意を得ている。</p> <p>入園当初は子どもの状況や保護者の意向により慣れ保育を実施している</p> <p>入園前面談では、保護者の勤務時間や個別の事情、意見や要望等、さらに子どもの保育に必要な情報など、園長や主任が1時間程度の時間をかけ丁寧に聞き取っている。聞き取りをした内容は、専用の面談記録表に記載して会議等で全職員が把握できるように周知している。入園後は、園の生活や集団生活にスムーズに入っていけるよう子どもの様子に合わせ、1～3週間の慣れ保育を実施している。1歳児には入園式当日給食を提供し、保護者と一緒に食べてもらい、その様子から個々に配慮しながら食事を進めている。</p> <p>退所や転園の際は、園児や保護者の気持ちに寄り添い継続したサービスに努めている</p> <p>年長児が小学校入学に向けて卒園する場合は、卒園を祝う会を開催し、送る側と、送られる側と手作りの記念品を贈り合ったり、子どもの心に残る思い出づくりをしている。いろいろな事情で途中退所や転園が決定した子どもへは、制作などの作品をまとめたり、クラスの友達との写真にメッセージを添えてプレゼントしたりして、いつでも園に遊びにきて再会できるような声掛けをしている。また、支援の継続性にも配慮しており、写真販売などの知らせも受け取られるようにするなど、しばらくの期間は電子媒体の登録を残している。</p>		

サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

13/13

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(00000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ3の講評		
<p> 子どもの状況や発達記録などは、定期的に記録して児童票と一緒に綴じて把握している 区が作成した児童調査票を基に、誕生してからの成長の様子や生活習慣の様子を記載する生活調査表や、予防接種の記録などは児童票と一緒に綴じていつでも見られるように保管している。1・2歳児の発達記録は、項目毎に出来た月年齢を記入し、3・4・5歳児は年4回に分けて定期的に発達の様子を記入している。5月には保護者に子どもの姿や遊び、チャームポイント、今年育てほしい姿などを「すくすくプラン」に記入してもらい、担任が、年度の前半、後半で子どもの姿を捉えて記録をして、児童票に綴じて保育が終了するまで保管している。 </p> <p> 全体的な計画を基に指導計画を作成して保育の実践をしている 区立民営の保育園として「大田区の保育」に準じて指導計画を作成している。区の全体的計画は養護(生命の保持・情緒の安定)、教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)について、項目ごとに年齢の発達に合わせたねらいや配慮事項が示されており、園の全体的な計画については、クラス担任からの意見も取り入れ、園長と主任で子どもの状況に合わせて作成している。担任は全体的な計画を基に、年齢ごとの年間指導計画を立案し、配慮を必要とする子どもの個別指導計画も作成して、振り返りを行いながら保育の実践をしている。 </p> <p> 指導計画を保護者に分かりやすく説明し、職員間でも情報を共有している 昨年度よりICT化システム導入をしたことにより、保育書類や連絡帳、指導計画などパソコンやタブレットから職員はいつでも見ることができて、子どもの情報はクラス会議や職員会議でも共有を図っている。子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、毎日、昼礼を行い、申し送りや引き継ぎを徹底している。保護者には年2回の保護者会にて指導計画・目標などを説明し、さらに、園内外での子どもの活動の写真を掲載した資料を配付して説明をしている。また、毎日、電子媒体で「クラスの今日の活動」を配信し、保育の説明や活動の様子も伝えている。 </p>		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>子どものプライバシー保護を徹底し、羞恥心に配慮した保育を行っている</p> <p>個人情報の取り扱いについては、重要事項説明書に園便りや写真、ビデオなど使用目的を明確にした6項目を記載し、入園時に説明をして書面で同意を得ている。また、転園や小学校入学、学童入所に伴い、継続したサービスの提供のために「個人情報の受け渡しの承諾書」をもらい、その後に必要な情報等を提供している。羞恥心やプライバシーに関して、おむつ交換は外部から見えないようにトイレや衝立など利用し、幼児組の着替えについては男女時間差で部屋を使用して、プールや水遊び時にはカーテンや衝立を利用する等配慮をしている。</p> <p>一人ひとりの子どもを尊重して、子どもの気持ちに寄り添うような保育を心掛けている</p> <p>「大田区の保育」や全体的な計画の中に「子ども一人ひとりの人権を尊重した保育」と記述があり、指導計画の中にも一人ひとりの気持ちを受け止め安心して過ごせるように、と記載されている。子どもの気持ちに寄り添えるような保育を心がけており、1・2歳児は担当制にしたり、少人数のグループ分けなどをしたりして子どもの意欲を大切に援助に心掛けている。担当制にすることで子どもに丁寧に関わることができ、職員との愛着や信頼関係が深まって、遊びや生活を落ち着いて過ごせるように配慮をしている。</p> <p>外部研修や園内研修などを通して虐待防止に努めている</p> <p>区が開催する人権の研修に職員が参加して学んだことは、職員会議や園内研修で時間を取り、職員間で共有をしている。研修は、子どもの人権はもちろん、職員間や保護者対応を踏まえての人権問題、保育中に考えられる人権尊重などを具体的に学べる内容となっている。人権について、自己評価票の中に自分の考えを記述する欄を設けて、自己評価票を基に園長面談を実施している。不適切な保育については、毎日昼礼などで振り返りを行っており、職員間で気付きなど何でも言い合える関係性が大切であると経営層は考えている。</p>		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>区で作成したマニュアルを基にサービスの標準化を図っている</p> <p>民営化して2年目の運営ということもあり、子どもや保護者が戸惑うことのないように、区で作成したマニュアルに従ってサービスの継続をしている。マニュアルや手引きは、保健業務の手引き、安全保育の手引き、事故防止ガイドブックなど14項目のマニュアルを定めており、その他にも「大田区の保育」や、苦情対応マニュアル等が整備されている。「大田区の保育」の冊子は入職時に職員に1冊ずつ配付して保育観の理解と共有に努めている。マニュアルはいつでも手に取って確認できるように事務所の書棚に保管され、活用している。</p> <p>マニュアルや手順書などは、見直しをして変更がある場合は随時差し替えている</p> <p>保護者に配付される重要事項説明書は園の特色を入れて、提供されるサービスの詳細が記載されている。毎年、9月までに見直しを行い、区から変更や訂正の連絡が入った場合は、職員会議で報告して意見を募って全員での共有を図っている。朝の受け入れや、延長保育など早番遅番の仕事があり、子どもの受け入れや送り出しがスムーズにいくように園独自の手順書が作成されている。園の手順書については、職員会議等で必要に応じて変更をして、変更の確認と職員間での共有を図り、サービスの充実に努めている。</p> <p>保護者の意見を取り入れサービスの向上に努めている</p> <p>民営化になる前の保護者からの苦情などは、いつでも確認ができるように書庫に保管して鍵をかけている。第三者委員を交えての運営委員会は年2回実施して、開催前には利用者アンケートをとっている。内容や、改善点などに対し、運営委員会で回答をして理解を得るように努めている。保護者の要望があり1歳児が使用するおもむつについて、持ち込みが家庭の大きな負担になることから、来年度からおむつのサブスクを導入することに決定をした。大きな行事の後にもアンケートをとり、出された意見は次の行事に反映させるようにしている。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの発達の状態を把握し、主体的に活動ができるように取り組んでいる</p> <p>入園前面談を実施して、子ども一人ひとりの生育歴や生活環境、発達過程、子どもの状況などを聞き取り記録をして、職員間で共有している。子どもの全体的な姿を把握し、指導計画を作成して保育をしている。入園後は子どもの成長を見守りながら、主体的な活動ができるような環境づくりに努めており、落ち着いて遊べる環境と自分のやりたい遊びを選べる環境を考えたコーナー(ままごと・ブロック・絵本など)を設定している。玩具は発達年齢に沿ってクラスごとに用意をし、興味や関心を見極め、空間の広さも配慮をしながら、随時入れ替えを行っている。</p> <p>思いやりや互いを尊重する心が育つように、異年齢での交流保育を計画し実践している</p> <p>保育の質を上げていくことを目的として発足した保育プロジェクトの中で、異年齢保育にも取り組んでいる。給食を一緒に食べたり、園庭で遊んだり、年齢の違う子ども同士が手をつないで散歩に行ったりしている。異年齢での交流を通して憧れや思いやりの気持ちを日常の保育の中で育てている。秋祭りには子どもたちの意見を取り入れ、屋台や遊び、お土産のコーナーなどを、異年齢で周って兄弟のような関係を育てている。訪問調査当日は2歳児と3歳児がテラスで一緒に食事をしていて楽しそうな雰囲気が伝わってきた。</p> <p>子どものトラブル等には職員間で共有を図って、子どもや保護者への対応を行っている</p> <p>発達の過程の中で生じる噛みつきやひっかきなどのトラブルについての対応は、トラブルの前後にどのようなやり取りや行動があったのかをしっかりと把握して対応をしている。仲介や援助をする際には双方の子どもの気持ちに寄り添うようにしている。幼児のトラブルは、ある程度子ども同士のやりとりを見守ることも大切であり、危険が生じそうな場合は仲裁に入って双方の言い分を受け止め、怪我のないように努めている。子どものトラブルについては昼礼や職員会議等で報告して共有をし、保護者へは状況の説明や今後の対応等の話をしている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時は家庭での子どもの様子を確認し、降園時は保育中の子どもの様子を伝えている 受け入れ時には早番の職員や担任が子どもの機嫌や体調の良し悪しを口頭で確認するとともに、体温、顔色等の健康観察を行っている。1・2歳児は連絡帳(電子媒体)を使用しており、食事、排便の有無、睡眠等について降園後の家庭での様子を記入してもらい、園での様子を記入して、双方で生活のリズムを把握し子どもの生活の安定に繋いでいる。連絡帳は3～5歳児についても必要があれば入力が可能である。降園時には保育中の様子を口頭で伝え、担任以外の職員が伝える場合には伝達漏れがないよう引き継ぎ簿を利用している。</p> <p>生活のリズムや基本的な生活習慣の大切さを伝え自立に向けての取り組みを行っている 生活のリズムや基本的な生活習慣の大切さについては、口頭や毎日の連絡帳で確認をしたり、保健だより、給食だより等で伝える他、入園時のオリエンテーションや保護者会でも伝えている。基本的な生活習慣の自立に向けトイレトレーニングに取り組む際には、保護者と相談のうえ、子ども一人ひとりの発達過程を捉え、2歳頃より午睡後にトイレに座ることから始めている。また、箸の使用については手指を使う遊びを多く経験し、操作を見極めたうえで4歳児クラスより使い始め、子どもが無理をしないで進められるよう他の食具も合わせて提供している。</p> <p>休息や午睡は体調や子ども一人ひとりの状況に配慮して対応をしている 園では午睡時間については個人差が顕著にみられると認識し、子ども一人ひとりの状況に合わせた対応を心掛けている。休息の長さや時間帯については年齢や発達に応じて基本を決めているが、その日の活動内容や体調等により子どもの状況に合わせた対応に努めている。1歳児で月例の低い子どもや睡眠時間が足りない子どもについては、必要に応じて短時間での午前寝をしたり、就学前の5歳児については11月頃から午睡をなくす予定でいたが、子どもたちの状況を考慮し年明け頃より時間や回数を徐々に減らして午睡なしで過ごせるように調整をしている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>玩具や環境設定を考慮し子どもが自分で遊びを選んで楽しめるようにしている 園庭に面した各保育室は、遊びと生活の空間に分けて絵本、ままごと、机上遊び等のコーナーを設置している。玩具類は年齢に合わせた高さの棚に収納して、子どもが遊びたいと思った時に自由に取り出して遊び、片づけしやすいようになっている。玩具はクラス会議をして子どもの興味に合わせて入れ替えて、見立て遊び用の玩具を置いたり、バス停、ハンドル等は手作りで用意している。子どもが集中して遊んでいる時はプログラムの変更をして継続して遊べるようにしている。また、今年度は玩具のプロジェクトを立ち上げ、種類や数を調べている途中にある。</p> <p>子どもが主体的に様々な表現活動に参加できるよう配慮をしている 毎日の保育活動や行事を通して、描画、粘土、折り紙を使っての製作や好きな絵本からの劇遊び、毎月の歌を覚える中で身振り手振りの振りつけを考えて表現したりして楽しんでいる。リサイクル素材を使っての制作活動ではペットボトルや空き容器、ラップの芯等は事前に集めておいて自由に使えるようにしている。ペットボトルでバチを作り叩いてリズムを楽しんだり、行事の時にはお囃子になったりしている。子ども一人ひとりに作りかけのものを保管する籠を用意し継続して遊べるようにして、制作物は金曜日には持ち帰るようにしている。</p> <p>広い園庭と自然豊かな環境があり、身近に四季の移ろいを感じ取ることができる 広い園庭が確保されており、園庭には桜や梅、柿の木、ブドウの木等が植樹され、春には桜の花が咲き、秋には紅葉や果物の収穫ができる。近くには多摩川の土手があり、草花を摘んだり虫を探して捕まえたりできる環境にある。散歩マップは玄関のエントランスに掲示があり、週に1～2回は散歩に出かけている。近隣には落ち葉やドングリ等の木の実が拾える公園や神社があり、収集物を利用して描画や制作等様々な作品にしている。高層住宅の1階にありながらも、自然豊かな環境に立地しており、四季の移ろいを豊かに感じ取れる環境にある。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもが興味や関心を持って取り組んでいることから行事の内容を考え実施している</p> <p>職員は、園行事についてはやらされるのではなく、子どもが考えたことや、やりたいものから行事として実施できるようにしたいと考えている。今年の運動会は1部は1・2歳児が、3～5歳児は2部にして時間差をつけて実施をした。昨年の運動会で憧れの気持ちをもって踊りを見ていた5歳児が、今年はソーラン節を演目に決めて披露している。また、発表会については好きな童話からオオカミと7匹の子ヤギやブレーメンの音楽隊等を選んで、なりたい役はそれぞれ立候補で決め、役が重なった場合はジャンケンや話し合いで決めたりしている。</p> <p>演目や制作物など力を合わせて取り組み、達成感を味わえるよう援助している</p> <p>運動会のオープニングに、4・5歳児が合同でパラバルーンを取り入れ、月2回の体操の講師の指導の下で練習を重ねて発表をしている。一つ一つの演技のタイミングやみんなで力を合わせて成し遂げたことで達成感を感じている子どもの姿があり、保護者にも好評であった。発表会では劇の背景を共同で制作したり、秋祭りではチョコバナナや唐揚げ、金魚すくい、イカ焼き等を作って出店の売り物にしている。また、5歳児はペットボトルを使ってバチを作ったところ、秋祭りで担いだお神輿のお囃子や運動会のソーラン節の楽器として使っている。</p> <p>行事予定表は4月当初に配付をして保護者の協力と理解が得られるようにしている</p> <p>保護者が参加する行事には保護者会、運動会、個人面談等があり、年間の行事予定表を4月当初に保護者に配付し、調整して参加しやすいようにしている。年間保育目標と共に行事のねらいについてレジュメを基に保護者会で説明したり、取り組みの過程については随時電子媒体で写真や動画で配信をしている。動画にしているので子どもの様子や表情をみて、頑張っている子どもの姿に「こんなにできるんですね」と感想をもらったり、「わかりやすい」との意見もある。行事实施後はアンケートを実施し、出された意見は共有して次回行事に反映させている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもが安心して過ごせるよう、少人数で落ち着いて過ごせる環境を作っている</p> <p>園は13時間開所2時間の延長保育を実施しており、職員はシフトで勤務をしている。7時15分からは2歳児室を使用し全体で過ごす。7時30分には幼児組は保育室を別にし、1・2歳児については7時45分より各クラスでの保育としている。今年度は1歳児の早朝登園が多いため、シフトの調整を行い、7時30分から1歳児対応に職員を1名多く配置し、安心した中で過ごせるようにしている。夕方は17時30分～18時頃の降園が多いため、1・2歳児は18時まで各クラスでの保育とし、少人数で落ち着いた中で過ごせるよう配慮をしている。</p> <p>延長保育に移行する時間帯には専用の玩具を用意して楽しく過ごせるようにしている</p> <p>夕方の保育の時間帯については、1・2歳児は18時までは各クラスで過ごし、3歳児は17時50分までは単独で、18時より幼児組は合同保育となる。全体での合同保育となるのは18時15分以降の延長保育からとし、補食の提供は18時15分頃としている。延長保育はスポット保育利用を含めても常時4～5人程度と少人数であり、夕食の提供がある場合には職員も一緒に食べ、安心して楽しく食べられるようにしている。玩具は専用のボックスの中に、日中の保育では使用しないぬり絵やカードゲーム等を用意し、特別感もあり楽しく遊んでいる。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

子どもの嗜好や喫食状況を把握し、おいしく食べられるよう工夫をしている

献立は区の栄養士が作成した統一献立で、2週間毎のサイクルメニューとなっており、給食時には栄養士がクラス巡回をして、子どもの嗜好や喫食状況を把握している。クラス担任は毎日の給食について、味付けや食材の大きさ、食具、喫食状況等を給食献立感想表に記入し、朝礼で共有し、意見や提案は次回の給食提供時に反映させて、おいしく食べられるように工夫をしている。また、1歳児については離乳食がないため、食材の大きさや柔らかさを考慮したり、慣れた職員(月齢ごとの担当制導入)との関わりで落ち着いて食べられるようにしている。

除去食を提供する際には情報を共有し、安全に食べられるよう配慮をしている

アレルギー食は区のアレルギー対応ガイドラインがあり、提供の際にはガイドラインに即した対応となる。現在のところアレルギー食の提供はないが、宗教食に係る除去食を提供している。除去食の提供にあたっては、事前にメニューを確認し、食べられない食材のチェックを栄養士、保護者、担任等で行っている。配膳時にはトレイ、食器を別にして、トリプルチェックを行い誤食をおこさないように注意を払っている。また、体調不良等で皆と一緒に食べられない時には時差で事務室で食べたり、小さく刻んだり、牛乳を麦茶にして提供する等の配慮をしている。

栽培活動やクッキングを通して食に対する関心が持てるようにしている

年間食育計画は楽しく食べる子どもに成長するために目標とする具体的な5つの姿を明確にして、1~2歳児と3・4・5歳児について、それぞれを4期に分けて作成している。幼児組を中心にスイカ、メロン、トウモロコシ、パプリカ等の夏野菜の栽培活動や、収穫物を使ってクッキング等を行っている。伝統食品の味噌は昨年度に4歳児が仕込んだものを、今後は皆で味噌汁にして食べる予定である。今年は郷土料理を給食メニューに取り入れたり、子どもに好評なメニューはレシピを保護者に配信するほか、地域の小児科や児童館等にも置いてもらっている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当

評価項目7の講評

健康教育や安全指導を実施し、子どもが健康の維持に関心がもてるようにしている

年間保健計画を作成し、月毎に目標を定めて子どもへの健康指導や職員の研修を実施している。区の看護師が来園して健康支援を行う事業があり、これまで歯の健康と目の健康について子どもたちに話をしてもらっている。今後については自分の体も友達の体も大事という視点でプライベートゾーンについて話をしてもらい予定としている。手洗いやうがい指導は年間を通して保育の中で行うほか、今年度は区が制作したDVDの配付があったため、活用して健康教育に役立っている。警察署による防犯指導については、今年度は子どもを対象に実施予定である。

嘱託医による健康診断や関係機関と連携を図り子どもの健康支援に努めている

嘱託医による健康診断を年に2回、歯科検診を年に2回実施しており、結果については電子媒体で速やかに保護者に知らせている。健診の結果、受診が必要な場合には紙面で担任から説明をして受診を促している。また、身体計測は毎月1回実施して、結果を保護者に知らせている。与薬については原則行わないが、抗熱性けいれん剤等の預かりが必要な場合には医師の指示の下で与薬依頼書を提出してもらっている。また、園での怪我や体調不良等で早急に受診が必要となった場合の為に、受診可能な病院の一覧表を作成して備えている。

SIDSや感染症についての情報を発信し予防と感染拡大防止の注意を喚起している

SIDS(乳幼児突然死症候群)については入園説明会や保護者会で話をしたり、11月の強化月間にはポスターを掲示して予防を呼び掛けている。園では午睡時に睡眠チェックを行い、1・2歳児は一人ひとりの子どもについて10分毎に顔色、体の向き、咳の有無等のチェックを行い、うつぶせ寝の場合は仰向けに直して予防に努めている。3~5歳児についても30分毎に全体確認を行い記録に残している。感染症の情報については発生時は、潜伏期間や特徴、看護の際の注意点等を記載して掲示で知らせ、感染拡大の防止について注意を促している。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の事情に配慮をして個々の状況に応じた支援を行っている</p> <p>保護者の就労状況や個々の事情は、入園時には提出してもらった書類や面接で把握する他、毎日の送迎時の保護者との会話や連絡帳等を通して把握し、それぞれの事情に応じた支援に努めている。スポット保育の定員は5名までとし、随時の申し込みで利用が可能であり、土曜保育も当日の申し込みであっても柔軟に対応している。利用者調査において評価が高いところであり、「電話や電子媒体での連絡で温かく柔軟に対応してもらえ大変助かっている」との意見や「話をしっかり聞いてくれるので信頼している」等があり、保護者に寄り添った対応を行っている。</p> <p>日々のコミュニケーションを大切に保護者との信頼関係が深まるように心がけている</p> <p>保育中の様子は動画や写真に分かりやすくコメントをつけて電子媒体で毎日発信し、送迎時には保護者に異年齢児との関わりやエピソード等を伝え、コミュニケーションを密にとることを心掛けている。利用者調査には子どもに対しての丁寧な関わりのみならず、「保護者についても話をしっかり聞いてすぐに対応してくれる」との意見や、「安心して預けることができる」等が記載され、職員に信頼を寄せていることが理解できる。クラス毎の保護者会については、年に2回実施しており、自己紹介や意見交換の時間を設け保護者同士が交流できる機会を作っている。</p> <p>すすすすプラン作成等で園と保護者が育ちの確認と共有をして子ども理解に繋げている</p> <p>個人面談については年に2回実施をしており、5月の個人面談ではすすすすプランの面談を実施している。子どもの良い所や伸ばしたいところ、課題等を事前に記入してもらい、子どもの育ちの方向性を双方で確認している。園行事への参加のほかに、1・2歳児クラスは保育参観、3・4・5歳児は保育参加を実施し、一緒に散歩に行ったり、紙芝居を読んでもらったりしている。ほとんどの保護者が参加して、園で実際の子どもの姿を見たり、保育を体験することで園理解や子ども理解に繋がり、保護者の満足度も高いものとなっている。</p>		
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>地域商店や公共施設と連携し、子どもが楽しんでいろいろな経験をする機会を設けている</p> <p>近隣には商店街があり園のパンフレットを置かせてもらったり、夏のスイカ割り計画した際には、スイカ割り用にスイカを提供してもらい、皆で楽しむことができた。散歩の道の途中には清掃工場があり、出かけた際には立ち寄り見学をさせてもらっている。ごみのスケルトン収集車に園へ来てもらい、近くの公立園の子どもたちと一緒に、ごみの分別や収集等について話を聞いている。警察署員による交通安全教室では散歩の時の交通ルールを学んだり、今後は防犯指導を受ける予定である。以前より地域の中で交流が保たれていたため様々な経験ができています。</p> <p>公共施設の職員やボランティア等を通して職員以外の人との交流の機会がある</p> <p>散歩に出た際には地域の人達と挨拶を交わしたり、保育学生のボランティアの受け入れや、園に来てもらう様々な活動を通して清掃工場職員、警察署員、消防署員の人たちと触れ合う機会がある。今年の勤労感謝の日には清掃工場、駅、消防署等に、異年齢のグループで子どもたちがどこに持って行くのかを決めて手紙を届ける予定である。地域に向けて園庭開放を行ったところであり、園庭がない民間保育園や小規模保育園等に利用を呼びかけ、子どもや職員の交流はもとより、広い園庭の機能を活かしたいと考えている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-1	事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている
タイトル①	外国人講師による英語レッスン、外部講師の運動遊びは子ども、保護者共に反響大だった	
内容①	<p>民営化1年目は区立保育園の運営を確実に引き継ぐことを最重点に置いたが、同時に、その上に民営化の利点を提供することも計画した。“外国人の英語教師を直接雇用し、週2回15分～40分のレッスンを行う”“外部の運動講師を月2回招き、ルールを守って身体を動かすことを楽しみ、心身ともに成長できる時間の提供”するレッスンの実施は、子どもにも保護者にも反響が大きく、発表会や運動会でその成果を披露ができたことは保護者に喜んでもらった。子どもたちの大きな自信と自己肯定感を高めることに繋がったと考えられる。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル②	地域に向け園庭開放やキッズフェスタ等を行い、園のもつ機能を活かしている	
内容②	<p>地域の中の保育園として根付いており、コロナ禍で活動の制限はあったものの、新たな事業を計画して地域に向けて発信をしている。スケルトン収集車に来てもらったの活動は、ごみの処分を見るだけでなく、話を聞いて分別方法やリサイクルを学んでいる。今年は地域に向けて園庭開放とキッズフェスタを実施し、1回目のキッズフェスタでは子ども服のリサイクルを実施しSDGsにも繋がっている。2回目以降についても計画中であり、地域の保育園として培ってきたことに加え、新たな発想で事業が展開されることで、園の持つ機能の更なる活用が期待できる。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	保育の質の向上を目的とした保育プロジェクトを発足し保育に反映させている	
内容③	<p>保育は区の保育マニュアルである「大田区の保育」を基本に進めている。民営化2年目となり、保育の質をさらに向上させたいという目的の下に保育プロジェクトを発足した。保育プロジェクトは異年齢・玩具・音楽・ガーデニング・絵本の5分野に、職員それぞれが分かれて担当し、職員自身が考え、意見を出し合い、保育に少しずつ反映できるように取り組んでいる。そのためには職員間での共通理解が重要であり、職員間での対話を深められるよう、話し合いの場や園内研修の充実を図っており、今後は保育のさらなる向上に期待がもてる。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	新たな英語と運動のレッスン、ICT導入、土曜日の行事開催他について、保護者からは多数の賛辞が寄せられ満足度は93%に高まった
	内容	民営化への移行し際し、“子どもたちや保護者が迷ったり不安にならない安定した運営を目指し、その上で民営化の利点を理解してもらう”保護者がどのように受け止め、要望や意見を持っているかを把握し、適時の対応を確実に実施する”ことを最重要課題として、民営化前から入念な準備を行い1年目の運営に臨んだ。新たに提供した英語と運動のレッスン、ICT導入、土曜日の行事開催他、利用者調査には保護者から多数の賛辞が見られ、総合満足度を移行前の87%から93%に高めた。周到的な準備と計画の確実な実践が利用者満足度を高めた。
2	タイトル	栽培活動や郷土食を取り入れた食育の活動があり、子どもが食に興味をもっておいしく楽しく食べられるようにしている
	内容	日当たりがよく広い畑があり、3～5歳児を主に栽培活動に取り組んでいる。各クラスで栽培する野菜を決めて、スイカ、メロン、ニンジン、サツマイモ等の様々な野菜を作っている。子どもたちは水やり当番や草取りをして、育てている野菜に愛着をもち成長を楽しみにしている。食材の皮むきで野菜に触れたり、5歳児は栽培したニンジンやサツマイモを午前中に収穫し、午後のおやつでニンジンホットケーキを作って食べてたりしている。給食献立に、じゃじゃ麺やザンギ等の郷土食を取り入れたり、昨年度4歳児が仕込み熟成した味噌は、味噌汁にして提供する予定である。
3	タイトル	保護者支援の観点から、利用者の意見や要望はアンケート等から情報を収集し、ニーズを把握して課題の改善に取り組んでいる
	内容	保育のサービスの提供に関しては、年2回実施している運営委員において事前にアンケートをとり、保護者のニーズを把握している。保育内容や環境面、運営面、行事などについて保護者から意向を聞いて可能なところは改善しており、アンケートの提案から、午睡後も園庭での遊びができるように改めた。家庭から個人用の毛布の持参(午睡時利用)に変更したことで、1週間に一度の掛け布団カバー掛けをなくしたり、来年度に向けておむつのサブスクの導入も決定し、保護者の負担を軽減するなどの取り組みは、保護者からは高い評価を得ている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	今年度は具体的に何に取り組み、どのような成果を出すのか、推進体制や目標値の設定なども含め、単年度計画作成には検討を望みたい
	内容	「中期計画：令和4年度～令和6年度」には、民営化1年目からの数年は矢口第二保育園にとって大切な時期と認識され、最優先・最重要課題として「①移管後の保護者、子どもとの信頼関係の構築、②職員の定着、③大田区立保育園として区の考えを理解」が設定され、その実現のための活動内容や計画が記載されている。ただ、その上で、今年度は具体的に何に取り組むのか、どのような成果を出すのかが、説明されないと理解しがたい。計画した目標を達成するための推進体制や、目指す目標値の設定なども含め、単年度計画作成には検討の余地があると考えます。
2	タイトル	園の運営は各種マニュアルを基本にサービスの提供を行っており、読み合わせなどの機会を設け職員の共通理解や意識向上に期待をしたい
	内容	区立民営保育園として2年目になり基本的に区のマニュアルや手引きに沿って運営されている。各種マニュアルや手順書は、いつでも見られるように事務所の書棚に保管され、分からないことや疑問点を確認できるようにしている。標準的なサービスの提供にあたってはマニュアルが基本となっているが、職員調査からは周知徹底の不足も読み取れる。今後について理念や方針、各種マニュアルの読み合わせなどの機会を設け、職員が共通理解をもって取り組み、さらなる意識の向上に活かされたい。
3	タイトル	防災や安全について保護者の関心も高く、今年度は安全計画の作成があったため、早急に保護者周知と職員間での共有を図ることが望まれる
	内容	区立民営園のため、区で作成した安全保育の手引や事故防止ガイドブック等、様々なマニュアルや手引の設置があり、毎日の実践に活かしている。利用者調査では、非常時の安全対策について日頃の避難訓練や防犯対策等、園での実施内容を認めている。しかし、安全計画は年度当初の作成であったため、周知は準備段階にあり、速やかな周知が望まれる。更に職員間でも共有をして危機に備え、事故防止にも努めたい。また、毎月の園舎内外の安全点検についても、区の様式があるのでそれを活用し危険個所の把握と改修で、日々の安心、安全な保育に繋がりたい。